

菅波 茂

1月11日にブラジルのリオデジャネイロ州で大雨による洪水が発生した。地滑り被害も発生し、13日には600名を超える犠牲者と1万4000人を超える人々が避難していると発表された。AMD Aと総社市は、09年6月19日に調印した多文化共生に関する協定にもとづいてAMD Aから石岡末和看護師と総社市からタン・シュンワイ氏を1月18日にブラジルに向けて派遣した。写真はタン氏。

被災地現場からの報告では、ブラジル陸海軍が避難所を設営し、ブラジル赤十字社が巡回診療を行っており、直接的な医療支援の必要性はさほどなし。他方、多くの救援

物資が指定場所に山積みとなっており、被災者への配布が不十分な様子があることがえられた。被災地ではよくあることである。日本政府サンパウロ領事館から紹介された日本への「国費留学生の会」や現地のNGOと被災者支援のあり方を共に考え行動している。外務省や在日ブラジル大使館など関係者の方々に感謝したい。派遣チームはリオデジャネイロ市に住む前駐日ブラジル連邦共和国特命全権大使カストロ・ネーベス氏を訪問して、お見舞いの言葉とともに、片岡聡一総社市長の親書を渡した。「彼は私の心の友だ」とネーベス大使は感激された。昨年3月に総社市で開かれた多文化共生に関するフォーラムの席で、ネーベス大使は片岡市長からの総社市国際名誉顧問の要請を喜んで受けられた。私も大使に直言していた。「ブラジルで大災害が発生したら、AMD Aは総社市と必ず救援チームを派遣します。もしも総社市に在住するブラジルの人たちに何か起こったらブラジル政府として支援してください」と。総社市の職員の方々と総社市在住の日系ブラジル人の方々のみならず、静岡県在住の日系ブラジル人の方からも募金をいただいた。後者の方に電話をした。夫婦ともに日本語をあまり理解できていなかったが、AMD Aと総社市がブラジル洪水被災者救援チームを派遣したとのニュースを見て募金をされたことだった。ブラジルをはじめとする中南米に住む日系移民の方たちが、第二次世界大戦敗戦後の焦土と化した母国に送金をしている

総社市と提携したブラジル洪水救援

事実がある。その後日本の奇跡的な経済復興により日系移民の方々が日本に職を求めて来られるようになった。そして今度ブラジルが世界の経済大国として経済発展している。日本が助けられる番になる可能性もある。時空を超えた相互扶助の世界である。

ブラジルなどの血のつながりを大切にしている。血縁の形成は難しい。共同体社会の常識は「困ったときはお互い様」の「相互扶助」である。「まさかの時の真の友」に代表される相互扶助の繰り返しにより信頼関係が深まった。この信頼関係なくしたメッセージは何なの



て本当の多文化共生社会の形成は難しい。総社市は「子育て王国」を宣言している。総社市のシンボルは職員の名刺に印刷されているように「相互扶助」である。AMD Aは「決して見放さない」というメッセージを届けたことである。AMD Aは総社市との多文化共生に関する協定を誇りに思いたい。

か。「子育て王国」に通じる「慈悲の心」である。慈悲の心とはわが身を削って他の喜びに資する喜びである。母の心である。母の子に対する究極の心とは「決して見放さない」である。子の母に寄せる信頼の根拠である。総社市の同市在住日系ブラジル人の母国に対する洪水被災者支援は救援活動の規模ではなく、日本国内外の日系ブラジル人たちに、総社市はまさかの時の真の友として「決して見放さない」というメッセージを届けたことである。AMD Aは総社市との多文化共生に関する協定を誇りに思いたい。(AMD Aグループ代表)